



若者視点で事故防止

松前町、松山大生らに委託

危険箇所示すマップ完成

松前町とNPO法人松山大学学生地域創造研究所 Muse (ミューズ) などがこのほど、町内で交通事故の危険性が高い10カ所を写真やイラストで分かりやすく示した交通安全マップ (A2判) を作製した。町内全戸に配るほか各種行事で配布し、町外にも広める。

町民課などによると、同町は人口10万人当たり約1000件の交通事故発生件数が2010年に692件で、県内最悪だった。死亡など重大事故に至る前に若者の視点で注意喚起しようとマップ作製を委託した。

Museの7人が5月から3カ月かけ、伊予署が過去の事故からリストアップした危険な30カ所を自転車やミニバイクで点検して回った。平田乃莉子さん(21)は写真を撮る時、狭い道でもスピードを

出す車の危なさを肌で感じた」と振り返る。幅広い年代にマップに関心を持ってもらうため、車や自転車、歩行者がそれぞれ気を付けるべき点をヒマワリを模したキャラクター「安全一家」で説明するなど、デザインに工夫を凝らした。町民課の渡辺司係長は「個人で気をつける場所を書き込み、マップとして活用してほしい」と期待している。(竹下世成)